

かしばるしつげん
榧原湿原

再生
目標

昭和中期頃の湿地植生を再生し、人為活動との適切な関係を再構築

DATA

エリア：自然公園区域外
所在地：佐賀県唐津市
着手：H 14

榧原湿原地区自然再生協議会

概要：自然遷移の進行により悪化している湿原環境を良好な状態へ再生。

設立日：H 16.7.4

構成員数：42

全体構想作成日：H 17.1.26

実施計画作成日：

●H 17.3.31 (榧原湿原地区／佐賀県)
(H 19. 3 現在)



榧原湿原は面積約 120ha の湿地で、貴重な湿原植物、昆虫などの宝庫であり、継続的な人為的管理により自然遷移が抑制されてきました。しかし、昭和 46 年開設の七山村道による湿原の分断、野焼きやオオミズゴケの除去等の中断により、開放水面の減少や、陸化が進行しています。このため、特定植物の繁茂や枯れた植物体の堆積といった自然遷移の進行により、悪化している湿地環境を良好な状態へと再生することを目的とした取り組みを進めています。

地方公共団体 ④ 榧原湿原

榧原湿原の現状



ハッチョウトンボ



かつての開放水面が低木林化



ミズゴケの堆積およびミツガシワの繁茂



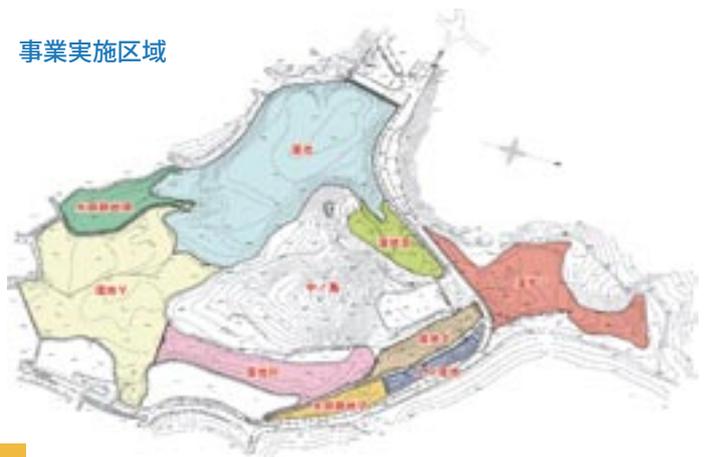
ミズゴケの堆積による陸化

自然再生の手法

- ▶ 段階的な植生除去→①
- ▶ 侵入した灌木の除去
- ▶ 湿地を分断している村道移設 (検討中)

湿地各箇所の潜在的な自然植生を推定した上で、それぞれの環境要素等を加味して再生植生の選定や再生目標の設定を行います。また、それぞれの状況に合わせて、オオミズゴケや木本類の除去、池の造成等様々な手法を組み合わせた再生事業を進めています。

事業実施区域



① ミズゴケの除去による自然植生の再生



ミズゴケ等の堆積により陸化が進行



浚渫および植生の抜き取りを実施



開放水面の拡大により多様な植生が回復